

M-1 グランプリで高得点を出す漫才の特徴

鈴木 健太

本研究では、M-1 グランプリのファーストラウンドにおいて高得点を出しやすい漫才の特徴を、定量化を行うことによって明らかにする。M-1 グランプリにおいて高得点を出しやすい漫才の特徴を明らかにすることで、M-1 グランプリに向けた漫才を作りやすくすることを目的とする。

近年、お笑い芸人がネタの面白さで順位を決めるお笑い賞レースが盛り上がりを見せている。特に M-1 グランプリは非常に注目を浴びているお笑い賞レースであり、出場組数が 2001 年から 2023 年にかけて 5 倍以上に増えている。M-1 グランプリの決勝戦は、ファーストラウンドと最終決戦に分かれており、ファーストラウンドの得点が高い上位 3 組が最終決戦に進むことが出来る。M-1 グランプリの優勝者を決める評価基準は、M-1 グランプリ公式サイトで「とにかく面白い漫才」と発表されている。この評価基準は曖昧であるため、本研究は定量化によって評価基準の明示化を行う。また、特徴の中でも特に「観客の笑いに関する特徴」に着目して分析を行った。

本研究では、ファーストラウンドで披露されたネタを対象とし、ランダムフォレストを用いることで、定量化を行った。本研究のランダムフォレストでは、最終決戦に進むことができたかどうかを目的変数として用いた。また、本研究では M-1 グランプリに向けた漫才を作りやすくすることを目的としているため、漫才を作る際に考慮できる特徴量を説明変数として用いて分析を行った。その際に、漫才を作る際に考慮できるかどうか曖昧な特徴量に関しては被験者実験を行った。被験者実験では、漫才を文字起こししたものを読んで被験者が笑った箇所・ボケだと感じた箇所・ツッコミだと感じた箇所にチェックを付け、私が用いる特徴量のデータと差が出ないかどうかを検証した。この被験者実験において、私が用いたデータと差が出た特徴量を説明変数から除き、分析を行った。

分析の結果、M-1 グランプリのファーストラウンドにおいて、「観客が笑った回数」が高得点を出すことに大きく起因していることが明らかとなった。また、「ツッコミの数」や「ネタ時間」といった漫才に関する特徴だけでなく、「ツッコミの人の年齢」や「コンビ歴」といったネタを披露している芸人に関する特徴に関しても、高得点を出すことに起因していることが明らかとなった。

本研究の分析では、M-1 グランプリのファーストラウンドにおいて高得点を出す漫才の特徴量の重要度に関して明らかにすることができたが、高得点を出すことのできる特徴量の具体的な数値を明らかにすることはできなかった。また、今回の分析で用いたランダムフォレストの精度が低かった。そのため、今後の課題としては、ランダムフォレストの精度を高くすることが挙げられる。

(指導教員 真栄城 哲也)